



新大阪ロータリークラブ

創立 昭和 60 年 5 月 8 日

<http://www.shin-osakarc.jp>

- 事務局 〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-5-15 新大阪フシントンホテルプラザ
TEL:06-6305-1010/FAX:06-6301-2525/E-mail: shin-osaka.rc@m6.dion.ne.jp
- 例会 毎週水曜日12時30分 新大阪フシントンホテルプラザ(TEL:06-6303-8111)
- 会長/中川 建司 幹事/村角 末義 会報委員長/稲田 正伸 会報編集委員長/生尾 雅美

四つのテスト

言行はこれに照らしてから I 真実かどうか II みんなに公平か III 好意と友情を深めるか IV みんなのためになるかどうか

No. 1249

Date 2011.9.21

*** 四つのテスト ***

言行はこれに照らしてから

1. 『真実』かどうか
2. みんなに『公平』か
3. 『好意』と『友情』を深めるか
4. みんなの『ため』になるかどうか

*** ロータリーの綱領 ***

1. 奉仕の機会として知り合いを広めること。
2. 事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること。
3. ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。
4. 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善の平和を推進すること。

<本日のプログラム>

第 1249 回例会 / 2011 年 9 月 21 日

本日の挨拶

「グーテン・ターク Guten Tag」(ドイツ語)

標 語

「Reach Within to Embrace Humanity」
「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」

ロータリーソング 「それでこそロータリー」

どこであっても やあとのおうよ
見つけた時にゃ おいと呼ぼうよ
遠い時には 手を振り合おう
それでこそ ローローロータリー

卓 話

「交通安全教室」
東淀川警察署 交通課長
坂萩 義昭 様



第 1248 回例会報告 (9 月 14 日)

- 司会進行 SAA 吉田 会員
 - ロータリー・ソング SAA 大橋 会員
 - 来賓紹介 SAA 北野 会員
- 会 友 宮崎 信夫 様
会 友 辻本 嘉助 様

■ 出席者報告 SAA 吉田 会員

第 1248 回例会 2011 年 9 月 14 日	
会員数 36 名	出席率 77.78%
出席数 25 名	欠席 8 名
出席免除会員数 3 名	
第 1247 回例会 (9/7)	
メイクアップ 1 名 修正出席率 86.11%	
8/24 松川会員	
9/18 安井会員	

■会長の時間

会長 中川 建司

2011.9.14



GSEプログラムとは

ロータリー財団:研究グループ交換プログラム

研究交換グループとは

国際ロータリーのロータリー財団研究グループ交換(GSE)プログラムは、事業と専門職務経験の浅い25歳から40歳の男女に、対になった異なる国の地域間を訪問し合うため、若い参加者から成るチームに旅費として補助金を支給するものです。

チーム・メンバーは、4週間から6週間にわたり、受入国の制度や生活様式を観察し、他国における自分と同じ職業の実践の様子を見学し、個人的かつ職業上の関係を育み、意見を交換します。

なぜ参加するのか

参加者は、帰国するまでに文化的な視野が広がるのみならず、国の歴史や言語、商業、政府に関する新たな理解を得ることができます。

GSEは、指導力を養い、チーム作りに取り組み、自信を培うまたとない機会を提供するものです。

このプログラムの目的は、仲間との出会いや生涯の友情を築く機会とを提供することによって、国際化の進む職場に働く若い専門職従事者の職業に貴重な影響を与えることです。

参加者の雇用主と地域社会にもたらされる利益とは

GSEは、現在勤めている会社を将来担っていくことになる次世代の若いリーダーたちの国際的視野を広めます。GSE参加者は、帰国する頃には、異文化で仕事をする人々に対する寛容、協力を促すような新しいコミュニケーション・スキル、円滑化の能力を身につけることができます。

GSEは、参加者が技能を伸ばし、異なる方法論を学び、地域社会のニーズに応えるための準備をすることによって、独創的な角度から問題解決に取り組む力を育みま

す。

その他、地元や海外のメディアが交換に関するインタビューや写真、記事などを取り上げる可能性もあるため、GSEは、会社や組織の認知度を高めるための広報に格好の機会となります。

参加資格があるのは

GSE チーム・メンバーの申請者は、以下の条件を満たしていなければなりません。

- ・年齢が25歳から40歳までであること。
- ・自身の職業分野で少なくとも2年間の勤務経験を有していること。
- ・現在の職業分野における経験が浅いこと。
- ・派遣地区内に居住もしくは勤務していること。また、居住国の国籍を持っていること。
- ・訪問国の言語に堪能であること。
- ・親しみやすく、自分の意見を明確に述べ、協調性に富み、意欲に満ちたチームの一員としての自覚を備え、自らの職業に熱意を抱いていること。
- ・本プログラムが提供する教育的な価値を最大限に吸収しようとする姿勢を持ち、海外旅行に伴う厳しい内容に耐え、過密な日程を積極的にこなすこと。

GSEは、最も優秀な実績を上げている社員に対する報酬として、あるいはリーダーとして将来有望とみなされているが国際経験が浅い若い社員に対する教育の機会として提供するのに最適な方法と言えます。

注:参加者の配偶者は、チームに同伴することはできません。また、ロータリアン、ロータリー・クラブ、ロータリー地区、国際ロータリーおよび他のロータリー関連組織の職員、ロータリアンおよびロータリー職員の配偶者、直系尊属(血縁による両親または祖父母)、直系親族(血縁による子または孫、入籍している養子)、直系親族の配偶者は、申請する資格がありません。

プログラムの内容

チームは、通常、異なる分野の職業に携わる4人から6人のロータリアン以外のメンバーと、1人のロータリアンにより構成されます。

GSEプログラムの実施期間は、4週間から6週間です。交換期間中、チームはホストファミリーとなるロータリアンの家庭に滞在しながら、受入地区内の企業、庁舎、地元団体を訪問し、地元の歴史や文化にゆかりのある地を巡り、母国と自らの職業についてのスピーチを行います。

チーム・メンバーには、出発前に、派遣ロータリー地区からオリエンテーションと文化に関するプレゼンテーションが提供されます。その内容は、言語研修、現地で行うスピーチの練習、ロータリー・クラブ訪問の他、国際ロータリーの使命と財団プログラムの背景の説明などです。

受入国は、チーム・メンバーの申請と選考が行われる前に、既に決定しています。

提供されるもの

ロータリー財団は、各チーム・メンバーに対し、自国から受入国までの最低価格の往復航空運賃を支給します。受入地区滞在中の食費、宿泊費、地域内のグループの移動費は、受入地域のロータリアンが負担します。

個人的に旅行する場合の費用をはじめ、研究旅行の前後および交換期間中に生じた一切の個人的費用や雑費は、すべてチーム・メンバー自身の負担となります。

参加者に期待されること

——出発前——

- ・オリエンテーションならびにグループ会議に参加し、旅行に必要な書類を入手する。これには、ビザ、パスポート、医療保険などが含まれる。

——交換旅行中——

- ・チーム・リーダーの決定を受け入れる。
- ・ロータリー受入地区の会合で行うことが義務づけられているスピーチの義務をすべて果たす。
- ・個人活動が予定に組み込まれている場合を除き、研究旅行期間中は常にチームと行動を共にする。
- ・自国とロータリー財団にプラスになるような行動水準を保つ。

——帰国後——

- ・派遣地区およびロータリー財団により義務づけられている交換旅行の最終報告書を作成し、提出する。
- ・ロータリー・クラブやその他の集まりで、GSEの体験についてスピーチをする。

申請するには

申請締切日については、地元のロータリー・クラブに問い合わせてください。申請は地元のロータリークラブを通じて行わなければならない、ロータリー財団に直接送付された申請書は審査の対象となりません。候補者は、ロータリアン指導者により構成された委員会によって選考されます。ロータリー・クラブの所在地、GSE申請資料、プログラムの指針に関する情報は、www.rotary.org をご覧ください。

■東日本大震災義援金報告 9月 14日 3,000円



ポール・ハリス・フェロー BOX

飯原会員、安井会員、山本会員

本日の合計 3,000円
 今年度累計 37,000円



米 山 ボ ッ ク ス

飯原会員、安井会員、山本会員

本日の合計 3,000円
 今年度累計 37,000円



ニコニコ箱報告

■SAA

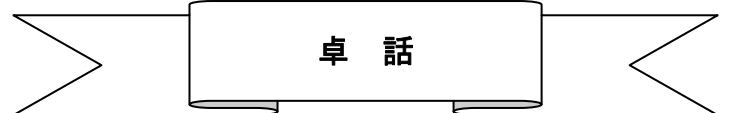
山本 会員

- 田中会員 18日区民まつりのお手伝い、町内の敬老会の担当手伝いの為、参加できません。すみません。
- 久富会員 元気で高砂まで歩いてきました。みなさんありがとうございました。
- 村角会員 妻の誕生日に美しい花をありがとう。
- 安井会員 欠席のおわび。

■幹事報告

幹事 村角 末義

- 11月11日(金)、12日(土)の二日間にわたり開催されます地区大会の出欠を回覧しますので、ご記入をお願いします。第1日目はクラブ役職や入会時期により、参加セッションが異なります。文書をご確認の上、お申し込みください。第2日目は全員参加をよろしく願います。
- 9月7日に行われました、第3回定例理事会の議事録をメールボックスに入れております。両面コピーとなっております。
- 豊中 RC より例会変更のお知らせが届きました。メイクアップ予定の方は、事務局にてお尋ねください。



卓 話

9月7日卓話

「震災復興支援プロジェクト 京援隊」

松本 正 会員

今日は、急遽卓話をおおせつかりました。

そこで、現在私が進めている東北大震災の復興支援プロジェクト、「京援隊」についてお話させていただこうと思います。

「京援隊」という名前は、私の事務所が京都にあることから、名づけました。

海から支援するのが海援隊ならば、京都から支援するのが京援隊。

とはいうものの、京都在住にこだわるわけではなく、日本中、世界中誰でも参加OK、

実際香港に住んでいる、僕の中学時代の同級生も応援してくれています。

震災が起こった当初、設計事務所を運営している建築家として、何かアクションを興さなければならないと感じました。

とにかく、これは未曾有の国難であり、復興に向けて動くことは建築家としての義務である。

そこで、私がデザインして京都の和光製作所が商品化している、水周りユニット「SUBACO」を避難所でもいい、仮設でもいい、とにかく必要とされる場所に設置しようと動き出したわけです。

SUBACOはキッチン、お風呂、洗面台等水周りがすべてセットになって外側の仕上げもついた製品で、2日で組み立て分解が可能であるため、移設が簡単にできます。

そのため、いわゆる仮設住宅で確実に再び産業廃棄物となる水周りを廃棄せずにする。

阪神大震災のときも、震災によって大量に瓦礫が出た後、仮設住宅が再び瓦礫になることを疑問に思ったことからこの製品を考え出したわけですが、そうしたところ、私の仕事上お付き合いの会社がいくつか支援を申し出てくださり、宮城大学で准教授をしている京大時代の後輩の竹内君から「南三陸の志津川に仮設の番屋を設置するので支援して欲しい」という話があって、南三陸に出かけました。

番屋とは漁師さんが、港で作業したり休んだりする施設で、その建設協力とSUBACO設置を依頼されたわけです。

初めて現地に入ったのは震災から一月半後のゴールデンウィークで、当初はいかに支援とは言え、どんな顔で被災した方と会えばよいのか複雑な思いでした。

事実、その頃はまだ港湾の瓦礫撤去もほとんど進んでおらず、津波被害のあまりの凄まじさに言葉も出ま

せんでした。

とにかく食べ物寝袋持参で、一切現地の方に迷惑をかけないぞ、と。

しかし、地元の漁師さんたちが温かく出迎えてくださり、付いた早々歓迎会まで開いてくださいました。

そうして、地元の方や大学関係者らと協力をしながら、6月末SUBACO第一号を番屋に設置しました。



そうした活動の中で、地元の方からさまざまな相談を受けるような形で現在も活動を続けています。

8月には宮城県の東松島に番屋2号建設、続いて、気仙沼近くの舞根に仮設の集会所兼宿泊施設の建設計画を進めています。

また、牡蠣の荷捌き所の再建、また地元の方の住宅建設等、すべきことは大量にあります。

京援隊は「目に見える、人の見える復興支援」を旗印にしています。

現在、多くの義捐金、支援物資が集まっていますが、それがどこでどのように使われたかは支援された方に

はほとんどわかりません。

事実、義捐金はほとんど積みあがった状態で、現在行政はそれをいかに「平等に」分配するかについて相談しているのです。

ことは一刻を争うにもかかわらず。

行政の論理としては一部住民にだけ援助することはできない、するなら全員に、という建前があります。

例えば被災地で被災者から聞いた話ですが、ある地区で「この地域で今飲料水が不足している」と二人の方が、役所の人間に訴えたところ、しばらくして 500 ミリリットルのペットボトルのミネラルウォーター 2 本持ってきて「特別ですよ」と置いていったそうです。

つまり、一人に水を出すのであれば住民台帳に載っている、全員に出さなければならない。それはできない。ので、誰にも出さない。

そうこうしているうちに、支援の水は積み上げられたまま、傷んでいっているのです。

そこで、京援隊は、たとえ少人数であっても、被災している人に向けて支援をし、その協力を皆さんに呼びかけています。

志津川で漁に出れずに困っている漁師さん、震災補助金で家を建てるにもお金の足りないWさん、東松島の牡蠣工房の方、とにかく、援助していただいた資金や物資が、どこの誰のために使われたか、をはっきりさせる。

資金提供していただいた方にも、「自分の提供したお金は、どこの集会所の建設に使われて、こんな人々が喜んでいる」ということが実感できる支援。

しかしながら、こうした方針で活動しているため、京援隊自身、公の補助金を期待していないため、資金不足で苦慮しています。

また、震災から日が経つにつれ、被災地以外での関心が薄れつつあることもあります。

しかし、本格的な復興はこれから、これからが大事な時期になり、また支援は絶対に長期化します。

そんな中で、皆様にもご協力いただければ、本当に嬉しく思います。

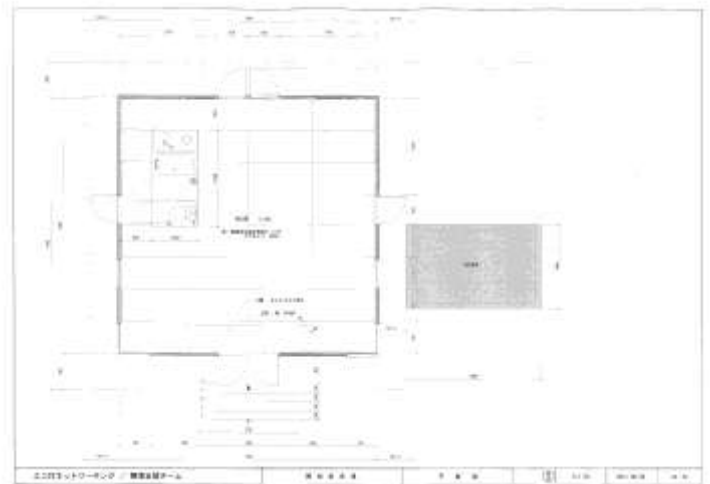
どうか宜しくお願いします。

京都信用金庫 店番号:001 口座番号:普通口座
2063667

名義:京援隊 代表 松本正

追)私の卓話の後、理事会で京援隊の復興支援に対して 60 万円の支援金を提供していただきました。本当にありがとうございます。涙が出るほど嬉しいです。

この資金は、10 月建設予定の舞根の仮設集会所兼宿泊所の建設資金に当てさせていただこうと思っております。それについては、現地で「協力:新大阪ロータリークラブ」のプレートを上げさせていただこうと考えております。また、出来上がったら会員の方にも見ていただきたい(写真だけでなく、できれば現地も)見ていただきたいと思っております。



東北復興支援「京援隊」隊長

(有)キアラ建築研究機関 代表 松本 正

Tel: 090-2387-8025

Email:rentsukiwaka0701@docomo.ne.jp

京援隊 HP: <http://kyoentai.web.fc2.com/index.html>

松本正[FACEBOOK]:

<http://ja-jp.facebook.com/people/Tadashi-Matsumoto/100002269978364>

京援隊[FACEBOOK]:

<http://ja-jp.facebook.com/pages/%E4%BA%AC%E6%8F%B4%E9%9A%8A/207450252624689?v=info>



大和 式内社巡り 宇陀番外編

古代を学ぶ会

倭姫命と御杖村 その2

平成23年8月20日、午後1時、道の駅「伊勢本街道御杖」横の「姫石の湯」で御杖村役場産業建設課主幹西岡悦夫氏、同じく御杖村役場みつえ体験交流館コーディネーター小田明彦氏のお2人とお会いいたしました。

そこで、お2人より再度、地元の人が「紅石は小屋神社にはなく、別のところにある」、「御杖村史には倭姫命が賊に追われて、紅や白粉をすてたとあるが、捨てたのではなく倭姫命が紅を塗ったところ」等と言っておられる旨聞かされました。それが事実ならこの点についての御杖村史の記載は間違っていることとなります。

御杖村史の記載に間違いがあるかどうかは別にして、とりあえず地元の人が言うておられる紅石のある所まで案内していただくことにしました。その石は、姫石の湯から車で約15分のところ、大字神末小屋の山あいの田んぼの中にありました(写真⑨)。昔から由緒ある石とされ、邪魔ではあるが他に移動させることもできず、ずっと田んぼの一角に置かれ続けてきているとのことでした。でも私の紅石に対して持っていたイメージからすると、写真⑨の石は余りにも大きすぎ、その形や大きさから紅石というより腰かけ石という表現がぴったりという感じを受けました。その疑問をお2人にぶつくと、お2人から「地元の人の中にはこの石が紅石だという人もいるが腰かけた石と呼ぶ人もいます。」との話がありました。3人ともこの石を紅石と断定することについて不安になり、村の古いことをよく御存知の長老に話を聞こうということになりました。そして訪れた先が今西秀男氏宅(写真⑩)です。写真⑪・⑫はご自慢の庭で、写真⑬がご本人です。写真⑭に、古墳のようなものが写っていますね。実は、今西さんが御自宅の庭に、有名な安倍文殊院内にある横穴式古墳とそっくり同じものを造られ、それをおまつりされておられるのです。写真⑭は今西氏からお話をお聞きするときに撮ったもので今西氏、西岡氏、小田氏、そして私が映っています。その時の今西氏のお話は、「かつては、写真⑨の石の近くに紅石があった。明治時代に近辺の神社がすべて小屋神社内に合祀され、その際多くの石も小屋神社に移されそこでまつられるようになった。紅石もその時小屋神社に移され、小屋神社でまつられるようになった。」というものであります。

この今西さんのお話を前提にすれば紅石は明治時代以降小屋神社内にあることになり、御杖村史の記載は正しいということになります。私達は、その小屋神社に行けば何か分かるのではと思ひ小屋神社に向いました。そこで私は

2人の方に対し「今のところ、この石を紅石と考えています。」と先週の写真④の石を示したところ、お2人から写真⑨の近くの場所に行こうとの提案がありました。というのは、今西さんが、そこにあった紅石の一部を切り取り、それを小屋神社で祭ることになったと言っておられたので、それが事実ならそこに写真④の石と同じ色・形状の石があるはずだからです。そこで、今西さんが言うておられた場所に行くと、そこには多くの石があり、驚いたことに、そのいずれの石も先週の写真④の石と、その色といいその形状といいまったく同じものであります。写真⑮の石もその一つです。

この結果、私の現時点での結論は「紅石は小屋神社内にあるという御杖村史の記載は正しい。」「紅石は先週の写真④である」ということになっています。ただ余り自信がありませんので、お2人に対して小屋神社の宮司さんや氏子さんから情報を得ていただきたい旨のお願いをしています。新たな発見があれば御報告させていただきます。

尚、この日最初に我々が見た写真⑨の石は御杖村史に「倭姫命が賊からのがれ、やれやれ楽になったと言い、道ばたの石に腰をかけられたのでその石を楽石」と記載されている楽石と思われます。

最後に御協力いただいた西岡悦夫さん、小田明彦さん、今西秀男さんの3名の方々に心よりのお詫びとお礼を申し上げ、番外編を終えることにします。

古代を学ぶ会 村木 茂

〈写真〉

⑨



⑩



⑭



⑪



⑮



⑫



先週掲載の写真④

⑬



本日のメニュー

ムール貝のプロス…ニース風
牛ヒレスステーキ…シャリアピン
デセール…タルトタタン
パンとバター
コーヒー



次週のプログラム



第 1250 回例会 / 2011 年 9 月 28 日

- ◆挨拶
「グーテン・ターク Guten Tag」(ドイツ語)
- ◆ロータリーソング 「それでこそロータリー」
- ◆卓話

第3回クラブフォーラム
クラブ運営委員会
(変更の可能性あり)

新大阪 RC のホームページも是非ご覧ください！

ホームページは随時更新しております。トップページの「トピックス」より、行事の写真もご覧いただけるようになりました。週報もアップしていますので、ぜひアクセスしてください。

<http://www.shin-osakarc.jp/>

社会奉仕委員会より

引き続き震災義援金のご寄付を
よろしく願います。

***** エンブレムの囁き *****

1. あなたは私を信用して頂いて結構です。私は信用に値します。
2. 私の用意はできています。何時でも貴方のために奉仕できます。
3. 私は、受ける以上のものを貴方に与えます。私は人のために奉仕します。

予定表

月	日	曜日	予定	時間他
9	21	水	第1249回 例会 「交通安全教室」 東淀川警察署	13:30～ 絵画クラブレッスン
	22	木	親睦委員会・親睦懇親会 18:00～ 於 ころ粹 Dining	JR 福島駅下車北へ徒歩1分
	28	水	第1250回 例会 第3回クラブフォーラム「クラブ運営委員会」	
10	2	日	歩こう会「金毘羅大作戦」第6回	9:30 山陽電車 高砂駅集合
	5	水	第1251回 例会 第4回クラブフォーラム「職業奉仕委員会」	13:30～ 定例理事会
	12	水	第1252回 例会 米山奨学生 研究についての発表	楊 仲軒君
	19	水	第1253回 例会 メンバー卓話 眉見会員	
	26	水	第1254回 例会 公開卓話 「民間電報サービスについて」	(株)しょうわ代表取締役 川田 元様

イラスト提供: Airy*Mint <http://airymint.com/> ・ 他